

上越地方のイトトリゲモ、ミズニラ

清水 尚之 (新潟市)

イトトリゲモは比較的希少とされる沈水植物である。2006年秋、上越市安塚区須川2カ所、同市板倉区上小沢1カ所で自生を確認できた。自生環境はすべて山間地の休耕田や棚田に水を張った小ため池である。

いずれの自生地もホッソモ、ヤナギスプタ、ミズオオバコが共通して見られた。この3種は上越地方の山間地では普通種で、3種そろって現れることが多い。このほかイヌタヌキモが見られたところもある。イトトリゲモはホッソモと混生しており、しかも酷似しているため、一見ホッソモだけが生育しているように見えることもある。

両種の区別点は以下の通りである。(写真参照)

- ・ホッソモ…雌花が1個ずつつく。葉鞘の突起が長く突出。
- ・イトトリゲモ…雌花が2個ずつつく。葉鞘の突起が切形。

しかしルーペを使わないと判定しにくく、混生している自生地での調査はたいへん効率が悪い。昨秋は長野県八ヶ岳山ろくでもイトトリゲモを観察でき、複数の経験からおおまかな形態上の相違が分かり、調査に役立った。形態変化が多い水草だけに、絶対的なものではないが、だいたいのめやすにはなる。一見した形態上の区別点は以下の通りである。

- ・ホッソモ…茎の褐色着色が比較的少なく群落全体は緑である。10月ごろの観察では茎先端の新葉展開部分が比較的密。
- ・イトトリゲモ…茎が赤褐色に着色し群落がより茶色く感じる。10月ごろの観察では茎先端の新葉展開部分が比較的まばら。葉身が細いのでなおまばらに感じる。

相違点は微妙なので、これまでホッソモにまぎれて発見できなかったところも多いと思われる。

ミズニラも希少な沈水植物で、かつては平野部の水田にも見られたようだが、除草剤汚染がきわめて激しい本県では現在そうした場所では完全に絶滅していると思われる。県内では山間地のため池にまれに見られるが、沈水状態だとほとんど発見は不可能で、池の水を落とす時期が発見する好機である。

上越地方では近年、旧上越市のため池で発見されているが、2006年山間地のため池を調査したところ従来知られていない産地を2カ所見つけることができた。上越市三和区、板倉区のそれぞれ1カ所である。近寄りやすい場所にあり、乱獲の恐れがあるため詳細な自生地名はふせておく。なお、大胞子の様子などからいずれもミズニラと同定した。

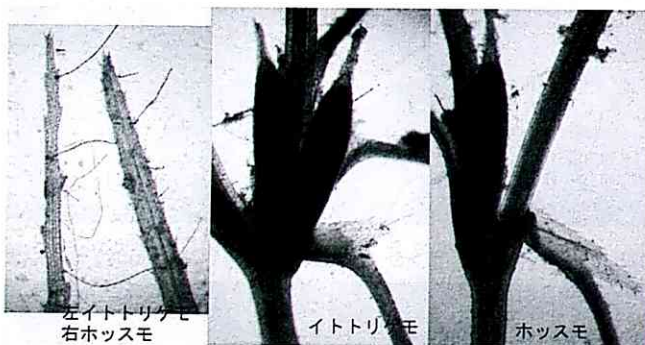


写真1 イトトリゲモとホッソモの比較

ホッソモは葉の中央に太い葉脈があり、イトトリゲモにはない。ホッソモは果実が1個ずつつくが、晩秋の観察では節間が詰まり、一見2個ずつついているように見えるので注意が必要。葉鞘の突起はホッソモのほうが長く突出するが、両種とも大小の変異があり区別しにくいこともあるので、複数の特徴を調べる必要がある。

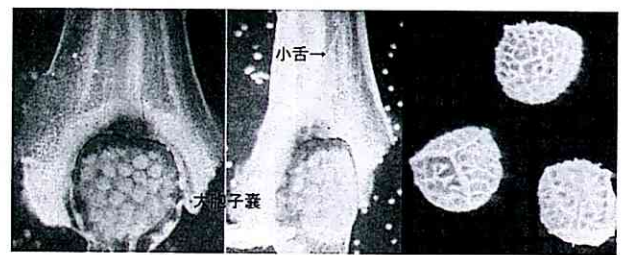


写真2 上越市三和区産ミズニラの葉基部、大胞子囊、小舌
ミズニラの大胞子は約0.5mmと胞子としてはきわめて巨大である。小舌は葉の基部に張り付いていて存在が分かりにくい。

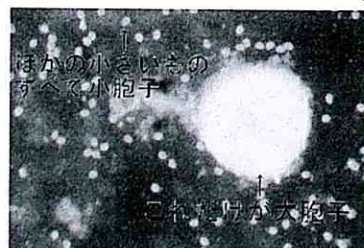


写真3 同ミズニラの大胞子と小胞子の比較

大胞子は外側の葉の基部につき、小胞子は内側の葉の基部につく。